

期日 令和2年2月19日(水)

18:30~20:15

会場 本別町体育館研修室

新津部会長・谷川委員・小林委員・寺島委員・今村委員  
事務局 高橋課長・長屋課長補佐・宮内主任

## 1. 開 会

## 2. 新津部会長あいさつ

お忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。私は文教厚生部会部会長を拝命しました新津と申します。大変不慣れではございますが、皆様にご協力をいただきながら務めて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日、第7次本別町総合計画策定審議会文教厚生部会、第一回目の部会となります。現総合計画の進捗状況などを見極めながら、皆様の気軽な、また活発なご議論や質問をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 3. 議 事

①1章2節 1項 幼児教育の充実、2項 義務教育の充実 3項 高校教育の充実 について  
総括シート **11月14日配布資料1** P4~14

**新津部会長** それでは事務局の方から説明をお願いします。

**事務局** 資料の確認と本日の流れの説明 議論いただくのは全部で4つ。①教育について、②社会教育・社会体育について、③福祉について、④健康・医療について。分野ごとに区切って審議。会議時間は概ね2時間とし、そのまま延長するか、もう1度開催するかは進捗状況を見て判断。

### 事務局説明

・基本方針⇒家庭や地域における教育機能の充実/私立幼稚園の安定的な運営/生きる力をみにつけるための教育/豊かな人間性と思いやりの心を養う教育/コミュニティスクールの導入/学校施設の整備や教育環境の充実/食物アレルギー対応と特色ある学校給食/本別高校の存続

・事前質問 **2月19日配布資料** P2~4

=1-2-1 (1) 幼児教育の充実

家庭教育支援事業⇒各々の担当にマッチした事業を展開、発展的解消。参加人数は増加。

1号認定割合が増えたのは⇒共働き、ひとり親が増。保護者の就労時間の増。

=1-2-1 (3) 私立幼稚園を利用する保護者への支援

浦幌町からの受け入れ費用は⇒保護者負担と浦幌町の負担。

=1-2-2 (1) 特色ある教育内容の充実

音楽備品のメンテナンスについて⇒備品の購入は2年度以降に変更。メンテナンスは修繕費で。ピアノ調律は年2回。

=1-2-2 (2) 個性を伸ばす教育活動の充実

スクールバスの距離要件の変更で事業費の増加や中学生の部活動への影響は⇒費用の大幅な増はない。部活終了後に下校バス時間を設定。

#### ＝1-2-2 (4) 教職員研修・研究活動の充実

ノーテレビデーと合わせてスマホを使わない日を設定しては⇒コミュニティスクールで協議して進める

H31 年度予算が多いのは？⇒社会科副読本の作成印刷費。

#### ＝1-2-3 (1) 本別高校の教育を考える会活動充実

生徒全員が同じように配分を受けられるように。行政はサポートにまわるべきでは。⇒2 学年の希望者にオーストラリア研修を実施する。保護者等の意見は役員会等でいただき事業を進めている。

#### ・事務局評価 B (達成率 60%～80%未満)

幼保連携型認定こども園開設／3～5 歳までの保育料完全無償化 (給食費も) ／英語教育を幼児期から／アレルギー対応食の実施／給食の地場野菜使用／スクールバスの要件改善／社会科副読本作成／学校施設の維持／本別高校支援

#### 委員より意見・質問

**委員** 10 年前の第 6 次計画のときのポイントは「幼児教育の充実」と「認定こども園をつくる」だった。今日はこれまでやってきたことを総括・評価することだが、教育のことは、普通にやればある程度平均点以上になる。新しい取り組みや、認定こども園だとか、新しいものをつくるために制度が変わったなど、そういった世の中の流れに即して動くのだと思うので、一定程度の実績・成果が上がる分野なのかなと。事務局評価は、A 評価は付けづらいと思うので、B にしておくのは妥当。ただ、7 次に向けてどういうことを目玉にしていくのかというイメージがもった資料からは見えない。高校教育のところ、この地域の方々の本別高校に対する熱意はすごく高いが、金額的にも相当の補助・助成をしていて、これはいつまでやるのか、住民理解は大丈夫なのか、といったことが気になっている。

**事務局** 今のご意見は、7 次の計画に繋げていくため、これからみなさんとお話ししつつ、我々もまた詰めていくところ。昔は 1 歳・2 歳児の教育、幼稚園や保育所に子どもを預ける人は僅かだったが、今は預けるようになってきている。認定こども園になったこともあり、そういう形に移行してきている。11 時間保育というように最大限使っているという人もいる。色々な議論があり、「家庭で過ごす時間が少なくなっているのはどうなのか」というご意見もあるが、保護者にとっては安心して働きやすい環境になっている。そういったことについても、第 7 次の総合計画で伸ばしていくことが子育て支援になる。高校教育の部分については、町としては高校に通っている生徒さんや保護者さんに対する支援が主となっている。これについても金額的に非常に大きい金額なので「いつまでやるのか、もうやめてはどうか」というご意見も正直あるところ。今のところ町の方針としては、可能な限り「2 間口を確保するために支援していく」としている。本別高校を考える会の中でも話し合い、また、こういったご意見については現場に返していくので、そこでもまた、色々なご意見をいただいた中で判断をしていくという形になる。ただ、財政状況が本当に厳しい状況になってきているので、我々としても一定の区切り、総括をしながら、そういったことも判断していかなければならない時期である。

**委員** そうなると、オーストラリア研修にこれから取り組むこととなっているが、これは町からの負担になるのか？

**事務局** 詳しくは聞いていないが、本人にもいくらか負担してもらい、ほとんどは町の負担という形になる。だから、先ほどの二千何百万というお金がさらに増える形になる。

**委員** 7 次の計画実施の開始は令和 2 年度からだったか？

**事務局** 3 年度から開始。今年ご議論いただいて、6 月には大まかな素案をつくり、皆様にまた意見を伺って、という形。さっきのオーストラリア研修については、新たに始めて、来年すぐにや

めますという話にはならないと考えている。

**委員** これは2年生が対象なのか。修学旅行もある、オーストラリア研修もあるとなっていて、子どもがオーストラリアに行きたいから親が負担しますとなったときに、親の負担が大きくなり大変だろうと思う。本当に必要なことなのか。確かに足寄がやっているから、それで本別の子も何人かそれに行きたいからと足寄に流れている現状も耳にはするので、それでは本別も、となったのかもしれないが。2年生の親の負担が大きくなれば、逆にもっと希望者が減ってしまうのではないか。

**部会長** 親から「本別に入れてもオーストラリア旅行には行かせてあげられない」と言われたら、子どもも「だったら本別に行かないで足寄に行こう」となるかもしれない。

**委員** 足寄は全額保護者負担なしなので、そこでまたさらに人が流れてしまうのではないか。

**部会長** 足寄は当面続けると新聞か何かで見た気がする。でも「本当に町民が辛いから、もうやめる」というような話も聞いたような気がする。

**事務局** 実際に足寄でもそういう話は出ている。どこの町も財政が厳しくなっている。

**事務局** 本人負担があるかないかについては、まだ公表になっていないので、こちらもしっかりとはわからない。

**部会長** でも、絶対に手出し無しということはないと思う。

**委員** そうなると、本当に町が苦しくなると思う。でも、交通費を出してもらって、音更から通ってくれている子が多くなっているのは事実。そういう面に関しては、こういう補助金があって正解だったとは思いますが、オーストラリア研修については、何か他のことで、「本別高校にはもっとこういう魅力がある」ということをアピールしてほしい。

**部会長** 本別高校へ町外から入って来ているお子さんの割合はどのくらいか？今度の希望者もすごく少ないようだが。

**事務局** 浦幌町からは、だいたい毎年8人9人くらいは入っている。あとは陸別、最近は音更から、今度3学年になるクラスで5人か6人。

**委員** 地元進学率はどのくらいか？町内の中学校から本別高校に行く割合は。

**事務局** 50%を切っているような状態。直近でいえば平成30年は入学者32人のうち地元が19人。昨年が36人入学のうち地元が26人。30年と31年を比較すると、7人くらいプラスになっている。ただ、28年から31年まで30人台が続いている状況。ずっと1クラス。

**部会長** 絶対数も少ないから。

**事務局** そうですね。生まれる子どもも本別町内で30人台。ですから「2間口維持」っていうところは、正直いつまで続けるのかというところ。元々子どもがいないわけですから。いずれにしても、どこかで、皆様に相談することになる。

**事務局** 今度中学3年生になるお子さんは60人くらいいるんですね。

**部会長** 今の中学2年生だけが2クラスでしたか？

**事務局** そうです。ですから教育委員会としては、1間口になってしまうと本別高校に行けなくなる子が出てしまうので、2間口をなんとか確保、というところ。

**部会長** でも今と同じように半数が行くと考えたら。

**委員** もっとアピールしても良い。例えば給食があること。これは実際に私も子どもを通わせていてありがたいと思う。結局、小学校から高校まで何も変わらない。朝起きる時間なども。それが親にはすごくありがたい。高校生になってお弁当を作らないといけなくなったから朝早く起きなくては、などということもないので。

**事務局** 実績もある。大学進学率や就職。大学や専門学校の推薦枠も良いところを持っている。ただ、なかなか中学生自身がそこまで考えているかどうかというところ。高校に入ってからそうい

うことを考えて、失敗したと言っているというのは聞く。

**事務局** 教育の部分については、町民の方が「予算を掛けるべきだ」としている部分であり、なかなか評価が難しいことであろうかと思う。町の教育委員会では「英語を教育の主軸にする」ということで、幼児から英語を教える活動を、今年度から専任の先生を雇ってやっている。その一環で、先程のオーストラリアの研修がある。

**委員** 教育の面でいうと、今の中学生などでは学校に来ていない子がいる。それが、多分、年々増えているのではないかと思う。それに対する対策などは、町では取り組まないのか。

**事務局** こちらで伺っているのは、横断組織について。保健福祉、学校サイド、教育委員会、それに保護者を含めて、場合によっては児童相談所なども入りながら、対策というか、その子に応じて、今後どう進めて行くかについて連携を取って活動していると聞いている。学校の先生が迎えに行ったり、保護者と一緒に学校に来たりなど、ケースによって対応があると聞いている。ただ、思春期で複雑な時期でもあるし、場合によっては家庭の状況が悪く、保護者が学校に登校させるような体制にない、というような状況もあるようで、様々な事情があると聞いている。以前には大阪の方で「中学校に行かなくても良い」という親が SNS で発信した、ということもあったが。

**委員** 町では、そういったことをちゃんと把握はしているということか？

**事務局** 把握はしている。また、中学校へ登校できていなくても、夜間学級や通信教育によって高校に進学して、就職している方もいると聞いている。

**部会長** 事務局の B 評価は、60%か 80%かで随分大きな差がある。80 だとなかなか良い成績な気がするが、60 だと半分ちょっとか、という気がする。

**事務局** 先ほど説明したが、やはり本別高校の部分があるので下げているが、それ以外についてはほぼ良い状況と考えている。

## ② 1 章 3 節 1 項 社会教育の充実、2 項 社会体育の充実 について

総括シート **11 月 14 日配布資料 1** P15~25

**新津部会長** それでは次の②について、事務局の方から説明をお願いします。

### 事務局説明

- ・基本方針⇒生涯各期における社会教育の充実／社会教育施設の整備／生涯スポーツ活動の基盤となる環境づくり／スポーツ活動の日常化の促進／運動公園の整備
- ・事前質問＝なし
- ・事務局評価 B（達成率 60%～80%未満）

青年教育・老年教育の実施／公民館施設の椅子・テーブル更新／図書館トイレ・授乳室改修／図書館ボランティアとの事業実施／ほんべつボランティアクラブかめの活動／ほんべつ学びガイドブック、学びの日だよりの発行／青年協議会活動／各団体と連携した文化活動の推進／健康ウイークの開催／体育協会と連携した活動／スポーツ推進委員・指導員活動／文化・スポーツ全道・全国大会助成

### 委員より意見・質問

**委員** この分野は、ハードの整備だと目に付くので「綺麗になったね」「使いやすくなったね」などと言ってもらえてわかりやすいが、事務局評価にある「町民全体の学びへの関心を導くには至っていません。」についてはどうやって判断するのか？

**事務局** 例えば、公民館でやっている町民向けの講座への申込者が増えている、などはひとつの判断基準になると考えている。そういったことから、関心が高まっていると考えることはできるのではないかと。あとは感触としてしか判断できないが。

**委員** 単純に、分かりづらいと思う。分かりづらいものは、目標としない方が良い。

**部会長** 全体人数が減っていて、高齢化も進んでいるので、出席人数が増えていくというのはなかなか難しいと思う。

**事務局** 本別は「スポーツの町」宣言もしているが、全町的なスポーツの取り組みというのは出来ていなく、一部の方のみが参加している。これについては次期に向けて改善。高齢者スポーツについては、スポーツ指導員などにより、盛んにしていくような動きがある。

**事務局** 総合計画のアンケートでも、活動や予算の使われ方が見えないという意見がこの部門では出ている。活動とお金がどのように使われているのかが見えないと。

**委員** 難しい。確かに見えづらい。

**事務局** 趣味などで活動している方は活動内容について知っているかもしれないが、まったく参加しない方についてはわからないのかもしれない。

**部会長** ひとつひとつの取り組みはすごく盛んだと思う。携わる人口は増えていないから、全体の活動が低調に感じるのかもしれないが。

**事務局** 最近芸術文化事業振興会が呼ぶ方々は結構有名な方だったり、内容的に良いと思うものが多い。時間などの余裕がないと自分の社会活動は出来ないかもしれない。図書館ボランティアさんなどは、随分長い期間やっていただいていると感心している。

**部会長** 「かめ」にしても「すきやきたい」にしても、すごい取り組みだと思う。

③ 3章 1節 1項 地域福祉の充実さ、2項 子育て環境の整備 3項 高齢者福祉・介護保険事業の充実、4項 障がい者福祉の充実 5項 ひとり親家庭福祉の充実 第6項 社会保障の充実 について

総括シート **11月14日配布資料1** P90～128

**新津部会長** それでは次の③について、説明をお願いします。

**事務局説明**

- ・基本方針⇒自助、共助、公助による地域福祉の充実／子どもを育てやすい環境の整備／高齢者が自分らしく安心していきいきと暮らし続けることの実現／障がい者施策における自立と共生社会の実現／ひとり親家庭が安心して子育てできる環境支援／きめ細かい国民健康保険事業の運営／後期高齢者医療制度の円滑な運営／国民年金制度の普及と加入促進
- ・事前質問=**2月19日配布資料** P10
  - =3-1-1 (2) 安全で安心して暮らせるまちづくり
  - 障がいサービスマップとは？⇒障がい者福祉サービス情報を掲載し、サービス事業所に配布したもの。希望者にも配布。
  - 勇足生きがい館、世代交流館の修繕予算確保は⇒20年を経過し大規模修繕が必要な時期に来ているため、計画的に実施していく。小破修繕は随時行っている。
  - =3-1-1 (3) 地域ですべての人を包み支え合うしくみづくり
  - 福祉でまちづくり宣言参加者が多いと見るか少ないと見るか？⇒少ない人数とは考えていないものの固定化していると認識。
  - 日本赤十字社分区分事業費がゼロとなっている⇒自治会等からいただいた募金（社資）を赤十字社に納め、そこから交付金を受けて活動している。
- ・事務局評価B（達成率60%～80%未満）  
在宅福祉ネットワーク事業／生活困窮者自立支援推進／安心生活創造事業／民生委員児童員活動／障がい者グループホーム設置／健康長寿のまちづくり会議開催／子育て支援拠点事業／ファミリーサポートセンター活動／幼保連携型認定こども園開設／保育環境の充実／児童虐待防止活動／児童発達支援センターよつば活動／児童館・学童保育事業／高校卒業までの

医療費助成／特別養護老人ホーム建設協議／住宅改修費助成／高齢者向け住宅の整備／緊急通報システム／はいかい高齢者等 SOS ネットワークシステム／通所型介護予防事業／高齢者家族やすらぎ支援事業／在宅生活サービス提供／銀河サロン運営／障がい者週間記念事業／農福商連携事業／特定健康診査

#### **委員より意見・質問**

**事務局** 総合計画のアンケートで出ていたのは、「福祉でまちづくり、福祉の町と言われているけれど、私はそうは思わない。」というようなご意見が何件かあった。

**部会長** これだけの事業を見るとすごいなと思う。多いなと。

**事務局** 本別に住み続けたい理由としては、お隣さん同士の繋がりや仲間の繋がりなどがあるからという方もいらっしゃるの、こういった活動を通じて、信頼関係や安心感があると思う。

**委員** この分野については、専門的過ぎてちょっと分からない。説明を聞いても、「そうなんですな」というくらいしか言葉が出ない。

**部会長** 確かに、自分が関わらないと分からない分野だと思う。教育というのは、自分も教育を受けてきたし、私の子どもも教育を受けてきて何となくわかるものだが、福祉は身内や自分が関わらないと分からない部分がすごく多い。私も姑が随分と色々な制度にお世話になって、改めて「すごいんだな」という事を色々経験したが、そうならないと良くわからないと思う。本当はすごく熱く議論しなきゃいけない分野だと思うが、何も意見が出てこない。

**事務局** そのとおりで、病気になって初めて健康の大切さがわかるような感じ。福祉の政策は、自分自身もそうだったが、自分の親がそうなったときに初めて相談して、自身が助けられたという経験がある。すぐに手すりを付けてくれたりだとか、「こういうサービスがある」と教えてくれたりだとか。自分がその状況にならないと分からない。事前に調べるというのなかなかできないので、難しさはある。皆様が、「こういったところはちゃんとカバーされているのだろうか」とか、今は関心がないけれども、今後 10 年間では「もしかしたらこういう新しい課題が生じるかもしれない」とか、「こういったところはもう少し目を配っておいた方が良いのではないか」といったご意見があれば、そのようなことを予測して検討することなどに繋がる。

**部会長** 年齢層の高い方、あとは障がいのある児童など、対象になっている方から総合計画のアンケートで出てきている意見というのは、本当に求めている意見だと思うので、そういったところを噛み砕いていただきたいと思います。ここで議論したくても、よくわからない部分が多いかなという気がするの。

**事務局** アンケートの意見についてはしっかりと受け止めていきたい。なかなか難しい部分がある。行方不明になられた方について、同報無線や屋外放送で何度も放送をかけたことがあるが、厳しい言い方をすれば、「物忘れ散歩ができる町」ということを言っているが、実際は、なかなか見つけられない。私達も山に入ったり公園を探したりして十分見たが、意外と細部までは確信が持てない。本別は、いわゆる認知症の方もみんな支えあいながら暮らせるとしていながらも、まだまだ実現できていない。だから、さっき言っていた「福祉でまちづくりと言っている割には、そうになってないんじゃないか」というご意見があるのは、そういうところなのではないか。

**委員** これは「見える化」のようなものはないのか。町ではこのような事業をしていますというものの。私は福祉の方は本当に全然わからない。「自分がこうなったら」とか、「親がこうなったら」「介護が必要になったら」目に見える、「困ったときにこうしたら良い」というものが自宅にあったらと良いと思う。自分がいざそうなったときに調べることのできる何かがあれば。

**部会長** 昔、広報のファイルで何年かに一回作っていたと思う。そのなかに一枚、表紙のようなものを挟み込んで、「結婚したときはこうしましょう」とか、「出産したときはこうしましょう」という説明があって、それだけ見れば、この部署で手続きすれば良いだとか、何日以内にこ

ういう手続きをするんだとかが分かった。勿論、調べれば情報としてはいくらでもあるとは思いますが、そういった一覧があれば、それを見てわかれば安心する。先ほどの説明で『障がいサービスマップ』の話があったが、そのようなものが全戸の見えるところに掲示できれば安心かもしれない。

**事務局** 『生活ガイドマップ』みたいなもの。こんなことでお困りのときは、のような。

**委員** 人の出入りの多い市町村では、転入したときにくれた。

**部会長** 本別に来たとき、そういったものはいただいたか？

**委員** いただいてないと思う。

**委員** 本別ではなかった。もらっていない。

**部会長** 他の町村では、戸籍の窓口にも、多分書類を入れる封筒だと思うが、出産のときは何日以内に申請しましょう、転入のときは何日以内に手続きをしましょうなどと、その封筒に書いてあるところもある。その封筒を見れば大体のことがわかる。窓口のこともすぐわかる。本別はそういったものがない。

#### ④ 3章2節 1項 健康づくりの推進、2項 医療体制の充実 について

総括シート **11月14日配布資料1** P130～143

**新津部会長** それでは最後、④についての説明をお願いします。

##### 事務局説明

- ・基本方針⇒各種健診及び保健指導と相談体制の充実／思春期保健活動の強化／生活習慣病や感染予防／医療ネットワークの整備／医療体制の充実／医療従事者の安定確保／信頼される病院づくり／救急医療の充実

- ・事前質問＝**2月19日配布資料** P10、11

＝3-2-2 (3) 地域ですべての人を包み支え合うしくみづくり

国保病院の中長期計画の更新は⇒平成 29 年 3 月に令和 2 年度までの本別町国民健康保険病院新改革プランを定めた。

＝3-2-2 (6) 救急医療の充実

1日平均3人程の時間外救急があるが維持体制が難しいのでは⇒救急対応は無くってはならないので、緊急度の低いものの受診を減らすなど住民理解と協力を。

- ・事務局評価 B (達成率 60%～80%未満)

子育て支援世代包括支援センター活動／妊産婦個別歯科検診の助成／不妊治療助成／妊産婦検診交通費助成／出産費用の助成／特定検診の受診率向上／がん検診受診率向上／こころのほっと相談／乳幼児・高齢者の予防接種実施／エキノコックス症検診／食生活改善推進委員活動／診療所との連携／地域連携室の設置／常勤医師配置による診療維持／健康診断による疾病予防／各専門診療科開設／救急医療確保

##### 委員より意見・質問

**委員** この健康づくりというのは、国や厚生労働省が自治体向けに出している、こうやったら良いという指針のようなものに即している取り組みなのか？

**事務局** 『健康日本 21』というプランに沿って、町として、特定健診受診率や予防接種率など、そういったものを実施していくという形。

**委員** ある意味、必要最低限のことをやって、プラス独自色を出していくということか。

**事務局** 北海道でいえば、エキノコックスの関係などは、また別にあるのかもしれないが。最近でいうと不妊治療など。

**委員** 医療も、町民みんなのリクエストを聞けばキリがない。ある程度、受付くらいは国保病院で

やってもらい、この状態なら帯広に行きなさいなどの指示をすれば。病院同士でこういった役割分担はきっとあると思う。帯広に行きなさいと言われた側からすると、何でこの病院だけで完了しないのかという不満はあると思う。本当は、町内で全部完結できれば良いのかもしれないが、技術だとか機具だとかの関係もあると思う。

**委員** この評価というのは、何かと比べての話なのか？自分で思ったことで良いのか、そういった尺度については、どのように考えれば良いのか？

**事務局** 町民アンケートでは、病院の待遇、接遇、そういったものについての批判的なものが多い。、昨年は特に不採算部門、赤字が、予定していたものよりも更にマイナスになって、町の財政がそこでひっ迫したと言われてもやむを得ないような感じになっている。ただ、病院は必要なもの。先ほどの高校の議論でもあったが、どこまでどうしていくかというのが、みなさんにもお話を聞いていきたい。今は耳鼻科があるが、やめても良いか？であるとか、眼科医を呼んでいるが、無くても良いか？というようなことも検討が必要になってくるのではと考えている。

**部会長** 病院の赤字を少しでも良くしようとしたら、何をすればもっと早く黒字に転換するのか。町民みんなが町立病院へ行けば良いのか

**事務局** 町内に新しい国保病院ができたのが平成 12 年。今から 20 年くらい前になる。当時の人口規模はまだ 1 万くらいはいたが、今は 7 千人を切っているので、3 千人減っている。それだけ患者さんとして病院へ行く人口が減っているというのが、大きな要因。また、当時は人工透析ができるのは、池北線では本別だけだったが、足寄も人工透析ができるようになり、続いて池田もできるようになった。それが、患者さんが更に少なくなった要因として考えられる。平成 12 年に病院を新しくしたときに、患者さんの利便性を高めるために診療科を見直して、耳鼻科を設置したりだとか、眼科をつくったりした。それによって常勤の医師も必要になり、施設も大きくしたので、そういった部分も影響している。そこで診療科目や現在 60 ある病床数も減らすことを考えていく必要がある。そうなれば、スタッフの数も減らすことができる。これが決定事項ではないが、そういったことについてはよく内部でも検討されている。

**部会長** それでは、入るものを増やすのではなくて、出るものを減らそうということか。

**事務局** そう。元々はそのキャパシティでつくっているもので、それに見合った支出を考えた方が良い。

**部会長** 今現在、お医者さんにしても、看護師さんたちも、いっぱいいっぱいの状態でやっているようなイメージがある。時間外や救急の方もこれだけ受け入れなきゃいけないとなると、大変だなと思う。

**事務局** やはり帯広に行くことになるが、救急車でも時間が掛かる。ルール上は、一回は地元で診断して、骨が折れているのか折れていないのかを診断したうえで運ぶ。だから、一次医療機関として、最初にまずかかるところの体制は、どうしても必要なため、そのためのスタッフ、当然レントゲン技師や検査技師などは土曜日、日曜日に関係なく 24 時間待機している。X線技師は 3 人くらいしかいないので、当番制にはなっているが、医師の指示があれば、すぐに撮りに病院へ来なくてはならない。

**部会長** 私も病院に通っているが、専門科が本別に無いので、仕方なく帯広に通っている。9 時からの診察だが、そこは 7 時から受付をしていた。1 分でも早く帰って来たいので、朝 7 時に間に合うように 4 時半に起きて通っていたが、2 月 1 日から、「働き方改革のために、8 時から受け付けます」という貼り紙がされていた。何時に出掛けようか悩んでいる。ただ、そういう方法で少しずつ病院側の負担を減らしていくしかないのかとも思っている。

**事務局** 町民の方がすごく不満なのは、病院の待ち時間が長いこと。これはお叱りの声が多いですね。人口が減っていても変わらないと。



**部会長** 町民の受診率は減っていないということか？

**事務局** 一人ひとりに話をちゃんと聞くことは病院としては勿論大事。でも待ち時間が長いとの意見もある。だから、予約制にはしたものの、「予約時間に行ったけども待たされた」「行った人からは待たされたという話しか聞かない」などと言われてしまう。

**部会長** でもそれはどこの病院でも同じような気がする。

**事務局** みなさん、調子悪くて行っているから余計に。

**部会長** 健康づくりというところに力を入れて成果が出れば、病院に行くことでの医療費負担も減る。介護認定者数が増えているという問題もあるので、そういったところにも繋がっていくのではと思う。最近言われている、未病ですか。

**事務局** 健康づくりを推進すれば、病院の受診は減っていく。逆に、病院に入る患者さんが増えると、病院としての経営は良くなっても、国保会計からの負担など、町の財政を圧迫する。みなさんの健康のことなので、受診が必要になったときに診察が受けられることを、みなさん望んでいるので、アンケートのご意見は厳しいものが多い。

**部会長** 国としては、医療費を減らそうとして、市販薬でも確定申告できるようにしたり、ジェネリックのお薬を使いなさいとか、そういう方向になってきている。

**事務局** 実際に議会でも、「ジェネリックなどを推奨しているのか」などのご意見も出る。「それによって医療費を抑えるなどしたら病院としても収益が上がるのではないか」と言われている。医師の指示が必要なものであり、医師としては、純正品とジェネリックでは「差異がある」というように考えてらっしゃる方もいる。

**部会長** この分野も、すごく議論しづらい。

## 全体を通して

**部会長** ひとつひとつ区切っていくとなかなか話が出てこないのですが、全体を通して、いかがでしょうか。途中から参加された委員さん、得意であろうと思われる、教育について、何かご意見等あればお聞きしたいのですが。

**委員** みなさんからは、どのようなご意見が出されたのでしょうか。本別高校のことなどについては？

**事務局** 本別高校の支援については、いつまでやっていくのか、町民の理解を含めてどうなのかというようなご意見があった。教育の部分ではそこが中心。あとは、認定こども園の幼児教育の部分についても少しご意見いただいたところ。社会教育などの部分では、委員は経験上、色々な町を見て来ていると思いますが、スポーツなどはどのように感じますか。

**委員** 盛んだと思う。毎週何かやっている。

**事務局** 今の関係で、本別はあまりにも数が多くて、むしろもう少し集約化しても良いのではというご意見もある。そうした方が良いのか？

**委員** それは思う。毎週のように色々なものがあり、金曜日と木曜日にもある週もある。もう少し少なくして、参加者を募ってはどうかと。

**事務局** もっと集中を、という声はある。同じようなものが毎週続いているのでは、という声も。

**委員** 回数はもっと少なくして、その代わり参加者に無理のない範囲でたくさん集まれるように。

**事務局** 人口減でスタッフも固定化してきて、担い手もいなくなっているなか、結構しわ寄せがある。メニュー的には同じものがあり、マンネリ化しているんじゃないかというご意見もある。予算を分散するんじゃなくて、集約して違う方向にという考えもある。私共の課の行事でいえば、いきいきふれあい祭りがあり、その翌週が教育委員会の学びフェスタがあって、その翌週が障がい者週間記念事業と3つの行事が毎週あって、それぞれでバザーもあり、似たような感じ。3つ

を一緒にできないかと言っても、それぞれの趣旨が少しずつ違うので、主催者側との調整がなかなか進まない。きっと来る人間にとっても、もう少しまとまった方が時間的な余裕ができるのではないかと思う。

**部会長** せっかく広い公民館を使っているのだから、一緒に「よーいドン」と何かをしているわけではないので、それぞれのブースで、色々なことをやればそれで済むのではという気もする。

**事務局** なかなかそこはすっきりいかないところ。

**部会長** 公民館などの施設で椅子やテーブルを更新したとき、古いものはどうしているのか？捨てるのか。どこか別な施設で使うのか。

**事務局** 別の施設で使ってはいない。昔式の重たいものであり、テーブルの天板が剥がれてきているものなどもある。そういうものが大半であるため、業者処分だと思う。全部が全部、処分はしていないと思うが、ほとんどは。

**部会長** 商工会で夜でかけナイトなどで使っているテーブルが、とても酷い状態。「更新した」というのを見て、ふと古いのはどうしたのかと思った。捨ててしまったのかと。

**事務局** 捨てているとは思いますが、確認する。

**部会長** どこか使い回しのきくところがあれば、捨てずに済むかとも思いました。他に何か、全体を通してご意見等はないでしょうか？

**委員** 僕も外から来た人間ですけど、教育の面で言うと、海外の研修旅行、足寄では人気があるんですか。参加者は本当にたくさんいるのかなど。

**事務局** 足寄も全員は行っていない。希望する人のみ。ホームステイのはずなので、それが嫌だという人も。

**委員** 足寄のカナダ研修は1年生の宿泊研修を兼ねたものではなかったか？それが無料だからという話を聞いたような気がする。

**事務局** 全額補助してくれるっていうのが足寄のウリだったら、それに行かないっていうのはおかしいのでは。

**委員** 本別高校で言えば宿泊研修みたいな感じだから、全員参加では。

**事務局** 私は「全員は行っていない」と聞いた。希望する人だけと。

**委員** 全員ではない。希望しない人もいるようで。やめるなどの話も少し聞いたが、本当かどうかはわからない。

**部会長** 足寄の議会だよりには「当面続けます」と書いてあった。

**事務局** 逆に、実は足寄でも人気がないのでは。

**委員** 人気がないというよりも、お金がすごくかかるからではないか。

**事務局** 旅費は出してくれても、滞在費などは自分持ちだろうから。

**委員** すごい金額。本別の倍かかるのでは。

**事務局** ホームステイしたところでも、何もしなくてわけにはいかない。

**事務局** 行った先で使うお小遣いまでは町で出してくれないだろうから。

**部会長** どうしたってそういったお金は要る。私の息子は札幌の方の国際科のある学校に通い、修学旅行がカナダだった。向こうで民泊、ホームステイしたが、私立だったのでいくらかは学校から出ていたと思うが、それでもかなりの負担で、お小遣いを持たせるのも大変だった。子どもを海外に出すっていうのは、負担金以外にも、やっぱり相当かかった。

**事務局** 足寄では報告書などを作っている。

**委員** 足寄では、それを中学校で高校生が発表している。

**事務局** それもひとつのフィードバック。

**委員** それが、結構人気だと聞いている。

**部会長** それを見て、足寄高校良いなと考える子もいるでしょうから。

**委員** 実際、本中からも足寄に行く子がいる。何年か前、半分ぐらいだったか、すごい人数が足寄に流れたときがあった。特に女の子が。それで本別高校の女子が6人くらいしかいなくなってしまつて。何が魅力でそっちに行ったのか、それがカナダ研修なのか、何なのかはわからないが。

**事務局** 友達関係とかもあるから。

**部会長** あと部活は大きい。

**委員** 卓球部があるから足寄に行く、という子もいる。

**事務局** でも今は本別高校にも卓球部はあると思う。

**委員** あるが、それがきっと遅かったのではないかと。

**事務局** 色んな理由が、あるようでないようで。どうなんだろう。実際は。

**委員** とても難しいところがある。分析するのは困難。

**事務局** 人口ビジョン、人口動態を見たときに、本別も7千人を切っているが、足寄も同じく7千人を切っている。将来的な人口推計もほぼほぼ同じだが、足寄は陸別の子と町内の子で50数名の入学者がいる。でもいずれは、どうかき集めても40人いなくなる。それは推計上も出ている。今は1間口ちょっとの人数だが、これもそう長くは、数値的には続かなくなるので、足寄も遅かれ早かれ、同じようになる。

**委員** 本中生は優秀過ぎるのか？学力的に。帯広へ出る子もいる。

**委員** 学力が上がったらそれなりに上の学校に行きたいとなる。

**事務局** スポーツが良ければ、札幌だ、旭川だとなる。

**委員** 優秀であればそういうところから引っ張られる。

**事務局** 一旦出ても、活躍してから、いずれ帰って来ていただければ。

**部会長** よく、「本別高校に福祉科があればいいのに」と言われる。必ずどこかで聞くことだが、そういう専門科を創設するというのは難しいのか？

**事務局** 道教委に一度それを陳情に行った。北海道では置戸高校に福祉科があるが、やはり同じような地域のなかに福祉科を配置することは難しいことと、福祉専門の先生が必要になるが資格をもっている人材がいないと。北海道教育委員会としては、なかなか難しいと。さらに学校改修もしなければならない。実習のための、特殊入浴の実習であったり、ベッドを置いたりなどということになると、それは認可できないと。鹿追町が特殊で、看護学科を要望していて、もう10年くらいになる。結局はできてない現状。

**委員** 今は認可されない。人が集まらない。逆に潰れていっています。

**事務局** 農業科は昔本別にあった。

**委員** もう一回復活しないか？農大があるという理由で。

**事務局** 帯広農業高校がある。帯広農業の間口も減っている。全部1間口で4学科。

**委員** 高校が農大と繋がってくれたら良いのだが。

**部会長** 以前、足寄で、高齢者が個室で生活をしていて、食堂があって、何人か高校生もそこに下宿しているような施設を見学したことがあった。その施設長さんが、看護学校とか福祉を学んでいる学校に一生懸命働きかけて、スタッフをどんどん呼んでいる、だから働く人には不自由しないという話を何年か前に聞いた。本別町はそうやって一生懸命積極的に、スタッフ集めなどはしているのか。スタッフが確保できないから老人ホームなども建てられないなどの話を聞く。そういう働きかけについて、積極的にしているのか。

**事務局** 介護人材の確保については本当に日本全国どこも問題になっている。担当が違うため詳しくは説明できないが、本別の取り組みとしては、GOGO介護という取り組みで、実習に来てくださいとホームページなどで呼び掛けをしている。そうやって学生さんをお呼びして、来るための費

用などについては町の方で持つ。事業所さんや、色々施設もあるので、その施設にもご協力いただいて。学生さんのうちから来てもらって、自治体を見てもらうという事業をしている。社会福祉協議会の職員に聞くと、その成果が出て来ていて、やっぱり一度来たことがあるとか一度見たことがあるというのは一つの縁で、「じゃあ一回行ったことのある本別に就職してみようか」ということで、毎年3人から4人くらいは来てくださって定着していると伺っている。この取り組みが評価されているのは、同じ地域のなかで、福祉の事業所が連携を取りながら、実習を受け入れたり、あるいはそういった事業に取り組むというのは、意外とどこの町でもそれはできてない。引き抜きはあっても、「みんなでやりましょう」という町は、少ないということで評価されている。どこの事業所に行っても、別の事業所の人が来たときに「元気でがんばってるかい？」とか、そんな声掛けをしてくれるというのは、働いている人達にとっては、待遇面よりも重要で、「人間関係の良さが本別は良いと言われる」と聞いている。もうひとつは、町の公的な支援として、介護人材、介護をする専門の方が、本別に居住するために移転、あるいは卒業してくるといったときに、移転費用などについて支援をして、来てもらいやすい環境づくりをしている。ただ、こういった手の施策はすぐに他の町もやるので、効果が薄れてきてしまうのも懸念。当然、学校へ行くときの支援もそう、資格を取るときの支援や、それから赴任してくるときの支援などについてもメニュー化している。それでも、人材は十分ではない、まだまだだというのが実情。

**部会長** 最近よく、『コミュニティスクール』という言葉を色々なところで聞いているが、いまいちどいったことなのか理解できない。

**委員** 一言で言うのは難しいが、地域の人が学校に携わるということ。昔はそういうものが多かったと思う。地域の人に育てられる、地域のおじさんに怒られるなど。そういうことが今はなくなってきているということで、保護者と先生方だけでなく、地域の人でも巻き込んで、教育にあたるというもの。例えば朝の挨拶や地域の人によるパトロール、いわゆる青パト。他にも、学校の授業に専門家として来てもらうこともある。例えば、学校の方で何かを栽培するようになったときに、農協の青年部の方に来てもらって教えてもらうといった形で支援していただくなど。それによって先生方の負担が減り、地域も活性化される。

**部会長** それらについて、成果として見えているものは何かあるのか？

**委員** 成果としてはまだ見えていない。できたばかりなので。

**部会長** 勇足では早くからやっていたように思うが？

**委員** まるっきりやってなかったこともない。挨拶運動は昔からしていて、青パトも前からやっている。地域の人を交えたイベントもある。非行防止するということもあるが、本別は本当にそういった非行などが少ない。生徒指導関係がすごく少ない町。十勝のなかで極端に少ない。

**部会長** では、昔から続けていたことなのか？

**委員** 昔から続けていたことを拡大していると言った方が正しい。

**委員** きょうだい数が少なくなり、生徒の数も少なくなったので、地域の人をお願いして、その穴埋めをしてもらうというようなこと。結構取り組まれていて、本別は少し遅れているのかもしれない。

**事務局** 中学生のアンケートでも2、3名の方が、「以前高齢の方と交流して教えてもらったことがすごく残っていて、普段からそういう交流を深めたい」という意見が何件か出ている。意外とそう思っている中学生が多いのかもしれない。

**委員** 色々な形に使える。例えば仙美里のような小規模校で、地域の人にも一緒に授業に入ってもらって、生徒と同じように授業を受けてもらって、地域の人も含めて色々意見を深めることもできる。昔はそういうことを結構やっていたと思う。そういうものが無くなった。今は昔に戻っているという感じがある。

**部会長** 色々と嫌な事件もあったので、学校がすごく入りづらくなってしまったような印象。

**委員** その逆で、今は開放しようという動き。

**部会長** 本別は挨拶運動も盛んだが、他の地域では、挨拶を知らない人にしては駄目という指導をしているという話も聞いた。本別は逆に挨拶をしてくれる。挨拶された方も気持ち良いと思う。

挨拶運動も毎年参加させていただくが、本別の子どもは、本当に挨拶をちゃんとするなど感じる。

**事務局** 色々と世知辛くなっている。こちらが変に心配で声を掛けられなくなっている。知らないおじさんに声を掛けられたら嫌だろうなどと考えてしまう。変にやりづらくなっている。

**部会長** 他にありませんか？ないようでしたら、事務局さんの方でまとめていただいて。

**事務局** お話いただいたことの他に気が付いたことが他にもありましたら、帰った後でも結構ですので、またご連絡いただければと思います。今日いただいた意見につきましては、まとめさせていただいて、3月の2日にまた全体会議をやりますので、そのなかで意見という形で出していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。あと、総合計画の答申ですとか計画書のなかでも反映させていくという形で臨んでいきたいと考えております。

**部会長** 他によろしいでしょうか？よろしければ以上で今日の会議を終了したいと思います。ありがとうございました。

## 後からの確認した事項

公民館で椅子等を更新した後の、古いものの処置状況

### ①中央公民館

大ホール椅子	大ホールの予備椅子（パイプ椅子代替）120脚 視聴覚室で再利用 80脚 美里別地区公民館で再利用 40脚 廃棄処分 36脚 美里別地区公民館で一時保管（譲渡希望者待ち）83脚
視聴覚室テーブル	備品廃棄手続き後図書館へ4台、体育館へ5台譲渡済み 総務課から自治連の総会で譲渡を受けたい自治会を募集 （→拓農自治会に15台譲渡済み）

### ②勇足地区公民館

講堂の椅子	パイプ椅子については譲渡可能（20脚は譲渡済み）
-------	--------------------------